Weekly ウィークリー オイル マーケット レビュー
Oil Market Review 24第15号
2024年（令和六年） 7月19日（金曜日） 毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所 石油情報センター
電 話 （03）3534-7411（代）
F A X （03）3534-7422
〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ10階
ホームページ https://oil-info.ieej.or.jp

■ 概況

当週（7月11日～17日）の国際石油市場は、中国の経済成長鈍化、IEAの2024年石油需要予測の下方修正で、やや軟化した。

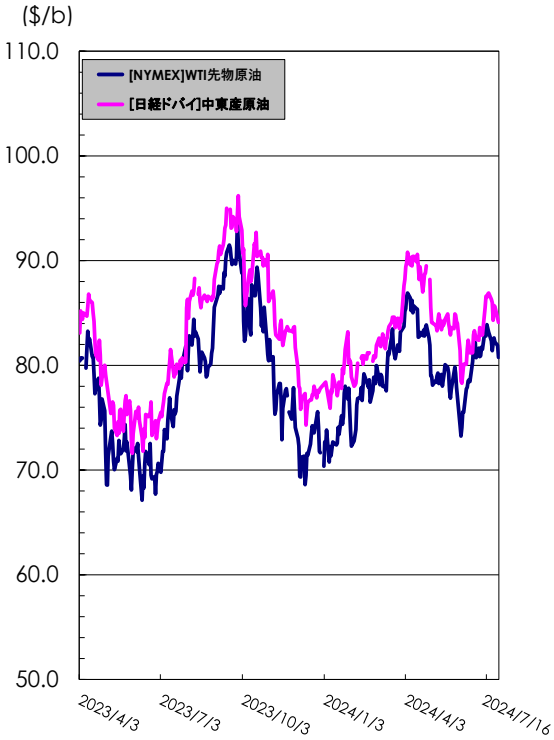
NYのWTI原油先物市場は、11日、続伸の82.62ドルで始まり、12日から3営業日続落、16日は80.76ドルまで下落、引き続き一週を通じて80ドル台はじめの水準で推移、17日、82.85ドルで終わった。

また、中東産ドバイ原油/東京市場（9月渡し）も、前週（7月4日～10日）84.30～86.90ドルの範囲で推移したが、当週は、7月11日85.70ドル、12日85.60ドル、16日84.10ドル、17日84.10ドルと推移した。

対ドル為替レート（TTM）は前週（7月4日～7月10日）160.77～161.55円の範囲で推移したが、当週は、7月11日161.73円、12日159.11円、16日158.45円、17日158.56円となった。

そのような中で、7月16日時点の国内製品小売価格は、ガソリンが前週比0.3円安、軽油も同0.2円安、灯油も同3円安（18リットルベース）、ガソリンの全国平均価格は175.9円となった。7月18日～25日の燃料油価格激変緩和補助金の支給額は32.9円（補助金がない場合の次週予想価格207.7円で、固定支給部分10.2円、185円を超える変動支給部分は22.7円）となった。

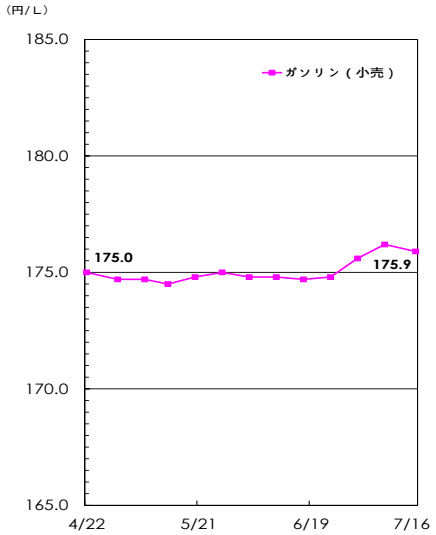
原油			今週		前週比	前年比
需給	原油処理量	（千kl）	7/7 ～ 7/13	2,051	▲ 87	▼ －
	トッパー稼働率	（%）	〃	59.3	▲ 2.9	▼ －
	原油在庫量	（千kl）	7/13	10,560	▼ -130	▼ －
価格	中東産原油（日経ドバイ）	（$/bbl）	7/16	84.10	▼ -2.20	▲ 5.2
	WTI先物原油（NYMEX）	（$/bbl）	7/15	81.91	▼ -0.42	▲ 7.8
	原油CIF単価	（$/bbl）	6月中旬	88.05	▼ -0.26	▲ 5.91
	①原油CIF単価	（¥/kl）	〃	86,659	▼ -253	▲ 14,702
	②ドル換算レート	（¥/$）	〃	156.47	▲ 0.01	▼ -17.20
	外国為替TTSレート	（¥/$）	7/16	159.45	▲ 2.32	▼ -19.57



（単位：千kl、円/リットル）

ガソリン			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/7 ～ 7/13	750	▼ -43	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	756	▼ -109	▼ –
	輸出		〃	49	➡ 0	▲ –
	在庫		7/13	1,620	▼ -55	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/9 ～ 7/15	82.8	▼ -0.2	▲ 3.8
		（TOCOM/中部）	7/12	81.5	▼ -1.0	▼ -1.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/16	175.9	▼ -0.3	▲ 1.9

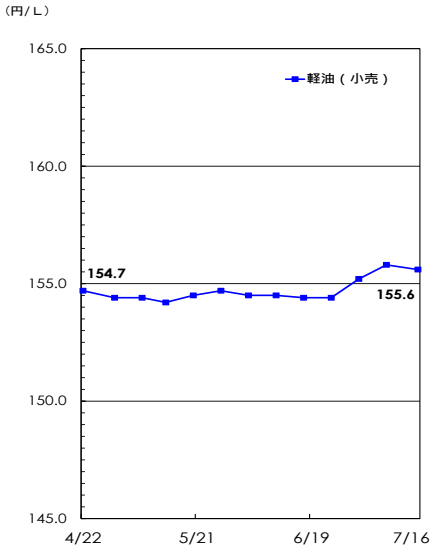
※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

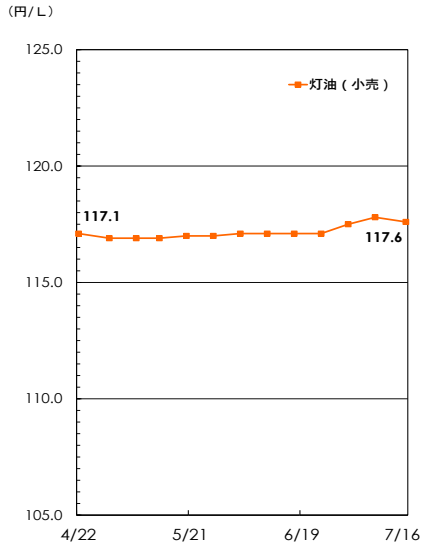
軽油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/7 ～ 7/13	607	▲ 98	▲ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	599	▲ 94	▲ –
	輸出		〃	100	▲ 3	▼ –
	在庫		7/13	1,328	▼ -92	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/9 ～ 7/15	85.5	▼ -0.7	▲ 1.2
		（TOCOM/中部）	7/12	-	-	–
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/16	155.6	▼ -0.2	▲ 2.0

※業転、先物価格は税抜き価格



（単位：千kl、円/リットル）

灯油			今週		前週比	前年比
需給	生産		7/7 ～ 7/13	-10	▼ -52	▼ –
	輸入		〃	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷		〃	39	▼ -24	▲ –
	輸出		〃	0	▼ -1	▼ –
	在庫		7/13	1,663	▼ -49	▲ –
価格	先物［期近物/終値］	（TOCOM/東京湾）	7/9 ～ 7/15	82.5	▲ 0.4	▲ 4.5
		（TOCOM/中部）	7/12	82.0	▼ -1.0	▼ -2.5
	小売［週動向］	（資エ庁公表）	7/16	117.6	▼ -0.2	▲ 3.2



■ 関連情報

1　海外/原油（WTI原油先物市場）

前週(7/4～7/10)のNYMEX・WTI先物市場は81.41～83.16ドルの範囲で推移した。

当週、7月11日は、米国の6月の消費者物価指数が前月比で予想を上まわる鈍化、インフレ鎮静化の兆しとして、利下げ期待が拡大したことから、続伸した。なお、この日の国際エネルギー機関(IEA)月報は、2024年の需要増加見通しを前年比100万BD割り込むとして下方修正したが、前日のOPEC月報はこれを同225万BDと据え置いたことから、影響は殆どなかった模様。8月物終値は同0.52ドル高の82.62ドル。

週末12日は、昨日のインフレ鎮静化の兆しが、逆に目先の石油需要鈍化につながるとの見方、また、昨日のIEAの需要見通し下方修正から、3日ぶりに反落した。8月物終値は、同0.41ドル安の82.21ドル。

週明け15日は、中国統計局が第2四半期の実質経済成長(GDP)を前年同期比4.7%増と発表、第1四半期の同5.2%増から鈍化し市場予想を下回った。そのため、中国の需要鈍化観測から続落した。ただ、パレスチナ紛争の拡大懸念が、底値を支えた。8月物終値は同0.30ドル安の81.91ドル。

16日は、前日の中国のGDP成長率鈍化の影響で、3営業日続落した。市場の関心は、翌日発表の米国石油在庫週報に移っている模様。8月物終値は、同1.15ドル安の80.76ドル。

17日は、米国石油在庫が原油の前週比予想以上の取り崩し、さらに、15日のトランプ前大統領のドル高是正発言、連邦準備制度理事会(FRB)幹部の利下げ前向き発言による為替市場のドル安進行に伴う原油先物の割安感から、4営業日ぶりに反発した。8月物終値は、同2.09ドル高の82.85ドル。

2　海外/米国石油市場

7月17日発表の12日時点の米国エネルギー情報局(EIA)の米国国内週間在庫統計は、原油は前週比490万バレル減と市場予想(同3万バレル減)に対して大幅な取り崩しと、堅調な需要を感じさせる結果であった。ガソリン在庫は同330万バレル増と市場予想(同160万バレル減)に反して積み増しとなったが、ハリケーン襲来の影響との見方から、大きな影響はなかった。

EIAによると、7月15日時点で、ガソリンの小売価格は、前週比0.7セント高の1ガロン3.496ドル(147.7円/㍑)と5週連続の値上がりで、ディーゼル小売価格は、前週比3.9セント安の1ガロン3.826ドル(161.6円/㍑)と5週ぶりの値下がり。

ベーカーヒューズ社によると、7月12日時点で、前週比1基減の478基と2週ぶりの減少となった。

3　国内/製品出荷量

石連週報によれば、2024年7月7日～7月13日に休止したトッパー能力は86.9万バレル/日で、前週に対して9.4万バレル/日減少した(全処理能力は311.0万バレル/日)。

原油処理量は205.1万klと、前週に比べ8.7万kl増加。前年に対しては35.6万klの減少。トッパー稼働率は59.3%と前週に対して2.9ポイントの増加、前年に対しては5.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/5.4%減、ジェット/23.4%増、灯油/123.4%減、軽油/19.2%増、A重油/11.1%減、C重油/27.3%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比横ばい)。軽油の輸出は10.0万kl(前週比0.3万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は前週に比べてジェット、軽油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比ではガソリン、A重油が減少し、その他の油種で増加した。ガソリンの出荷は75.6万kl(対前週12.7%減)と2週振りに減少した。ジェット13.3万kl(対前週423.8%増)、灯油3.9万kl(対前週37.8%減)、軽油59.9万kl(対前週18.5%増)、A重油15.1万kl(対前週5.6%減)、C重油18.9万kl(対前週44.7%増)。

(単位：千KL)

	今週 (7/7 ~ 7/13)	前週 (6/30 ~ 7/6)	前週比
ガソリン	756	865	▼ -109 (-13%)
ジェット燃料	133	25	▲ 108 (432%)
灯油	39	63	▼ -24 (-38%)
軽油	599	505	▲ 94 (19%)
A重油	151	160	▼ -9 (-6%)
C重油	189	130	▲ 59 (45%)
合　計	1,867	1,748	▲ 119 (7%)

※今週出荷量＝(前週末在庫＋今週生産＋今週輸入)－(今週輸出＋今週末在庫)

4　国内/製品在庫量

7月13日時点の在庫は、全ての油種で取り崩しとなった。前年に対してはジェット、C重油が減少し、その他の油種で増加した。

ガソリンは162.0万kl、前週差5.5万kl減。前年に対しては12.2万kl多い。

灯油は166.3万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては2.3万kl多い。

軽油は132.8万kl、前週差9.2万kl減。前年に対しては6.1万kl多い。

A重油は70.7万kl、前週差3.1万kl減。前年に対しては5.1万kl多い。

C重油は167.8万kl、前週差3.8万kl減。前年に対しては19.4万kl少ない。

（単位：千KL）

	今週 (7/13)	前週 (7/6)	前週比
ガソリン	1,620	1,675	▼ -55　(-3%)
ジェット燃料	697	756	▼ -59　(-8%)
灯油	1,663	1,712	▼ -49　(-3%)
軽油	1,328	1,420	▼ -92　(-6%)
A重油	707	738	▼ -31　(-4%)
C重油	1,678	1,716	▼ -38　(-2%)
合　計	7,693	8,017	▼ -324　(-4.0%)

5　国内/元売会社製品卸価格

7月9日～15日のドル建て中東原油価格は値下がり、為替レートも円高で、円建て輸入原油価格は値下がりし、元売会社の卸価格建値は値下げしたものと見られる。しかし、補助金の減額が小幅であったことから、7/18～7/24の実質卸価格は値下がりとなる模様。

6　国内/製品小売価格

7月16日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.3円安の175.9円、軽油も同0.2円安の155.6円、灯油も18㍑ベースで同3円安の2,117円（1㍑ベースでも同0.2円安の横ばいの117.6円）。ガソリンは4週ぶりの値下がり、軽油も4週ぶりの値下がり、灯油も11週ぶりの値下がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりが15県、横ばいは6都県、値下がりは26道府県だった。全国最安値は岩手県の169.9円、その次は愛知県の170.1円であった。他方、最高値は長野県の184.8円。最も値上がりしたのは沖縄県（同0.9円高）、最も値下がりしたのは愛知県（同1.7円安）だった。

次回調査時（7/22）のガソリンの小売価格は、値下がりが予想される。

（単位：円/㍑）

（資エ庁公表）[週動向]		今週　(7/16)	前週　(7/8)	前週比	直近高値	
小売価格	レギュラー	175.9	176.2	▼ -0.3	23/9/4	186.5
	灯油	117.6	117.8	▼ -0.2	08/8/11	132.1
	軽油	155.6	155.8	▼ -0.2	08/8/4	167.4

※ 現金一般価格の全国平均値（消費税込み）

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2004年6月以降の最高値。

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ（https://oil-info.ieej.or.jp）に掲載しています。
次回（2024第16号）の公表は、7/26（金）14:00 です。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

当センターでは、平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告を受けて、石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力のもと、石油関係者、企業の経営者の方々から一般消費者の方々まで、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈 石連週報 〉
石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油価格】〈 WTI先物原油、中東産原油 〉
WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange：NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、日本経済新聞掲載の東京スポット市場（取引の中心限月）の午後の中値を採用。 ※一般に、中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格が指標とされる。
為替換算レートとして、三菱UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate：中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】
元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

④【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉
約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用（資エ庁公表）。原則として、毎週（月）時点の価格を調査し（水）14：00に公表（資源エネルギー庁ーHPに掲載）。